

特114

850

曹洞教會修證義

全

2
339



始



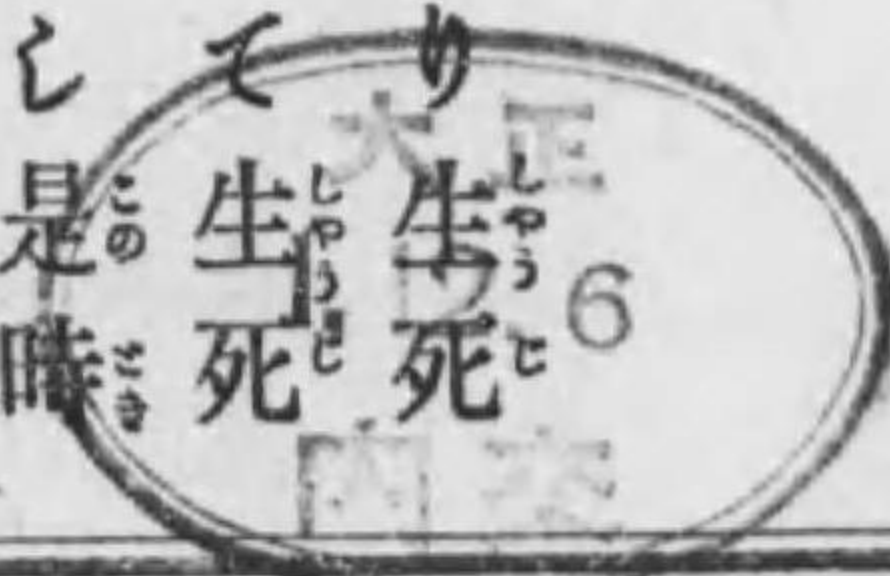
曹洞教會修證義

第一章 總序

生を明らめ死を明らむるは佛家一大事の因縁なり生死
 の中に佛あれば生死なれ但生死即ち涅槃と心得て生死
 として厭ふべきもなく涅槃として欣ふべきもなし是時
 初めて生死を離る分あり唯一大事因縁と究盡すべし
 人身得ること難し佛法値ふこと希れなり今我等宿善の

助くるに依りて已に受け難き人身を受けたるのみに非
 ず遇ひ難き佛法に値ひ奉れり生死の中の善生最勝の生
 なるべし最勝の善身を徒らにして露命を無常の風に任
 すること勿れ無常憑み難し知らず露命いかなる道の草
 にか落ちん身已に私に非ず命は光陰に移されて暫くも
 停め難し紅顔いづくへか去りに尋ねんとするに蹤跡
 なし熟観する所に往事の再び逢ふべからざる多し無常

忽ちこれ到るときは國王大臣親暱從僕妻子珍寶たすくる
 無し唯獨り黄泉に赴くのみなり己れに隨ひ行くは只是
 れ善悪業等のみなり今の世に因果を知らず業報を明ら
 めず三世を知らず善悪を辨まへざる邪見の黨侶には群
 すべからず大凡因果の道理歴然として私なし造悪の者
 は墮ち修善の者は陞る毫釐も忒はざるなり若し因果亡
 すとて虚しからんが如きは諸佛の出世あるべからず祖師



停め難し紅顔いづくへか去りにし尋ねんとするに蹤跡
なし熟觀する所に往事の再び逢ふべからざる多し無常

忽ち^{たまたま}に到るときは國王大臣親暱從僕妻子珍寶たすくる
無し唯獨り黃泉に赴くのみなり己れに隨ひ行くは只是
れ善惡業等のみなり今の世に因果を知らず業報を明ら
めず三世を知らず善惡を辨まへざる邪見の黨侶には群
すべからず大凡因果の道理歴然として私なし造惡の者
は墮ち修善の者は陞る毫釐も忒はざるなり若し因果亡
トて虚しからんが如きは諸佛の出世あるべからず祖師

の西來あるべからず善惡の報に三時あり一者順現報受
二者順次生受三者順後次受これ三時といふ佛祖の道
を修習するには其最初より斯三時の業報の理を効ひ驗
らむるなり爾あられされは多く錯りて邪見に墮つるなり
但邪見に墮つるのみならず惡道に墮ちて長時の苦を受
見^{けん}に當^たに知るべし今生の我身二つ無し三つ無し徒らに邪
見に墮ちて虚く惡業を感得せん惜からざらめや惡を造

りながら惡に非ずと思ひ惡の報あるべからずと邪思惟
するに依りて惡の報を感得せざるには非ず

第二章 懺悔滅罪

佛祖憐みの餘り廣大の慈門を開き置けり是れ一切衆生
を證入せしめんが爲めなり人天誰か入らざらん彼の三
時の惡業報必ず感すべしと雖も懺悔するが如きは重き
を轉トて輕受せしむ又滅罪清淨ならしむるなり然あれ

は誠心を専らにして前佛に懺悔すべし慙麼するとき前
佛懺悔の功德力を拯ひて清淨ならしむ此功德能く無
礙の淨信精進を生長せしむるなり淨信一現するとき自
他同く轉せらるゝなり其利益普ねく情非情に蒙ふらし
む其大旨は願くは我れ設ひ過去の惡業多く重なりて障
道の因縁ありとも佛道に因りて得道せりし諸佛諸祖我
を愍みて業累を解脱せしめ學道障り無からしめ其功德

法門普ねく無盡法界に充滿彌綸すらん哀みを我に分布
すべし佛祖の往昔は吾等なり吾等が當來は佛祖ならん

其大旨は願くは我れ設ひ過去の悪業多く重なりて障
道の因縁ありとも佛道に因りて得道せりし諸佛諸祖我
を愍みて業累を解脱せしめ學道障り無からしめ其功德

法門普なく無盡法界に充滿彌綸すらん哀みを我に分布
すべし佛祖の往昔は吾等なり吾等が當來は佛祖ならん
我昔所造諸惡業皆由無始貪瞋癡從身口意之所生一切我
今皆懺悔是の如く懺悔すれば必ず佛祖の冥助あるなり
心念身儀發露白佛すべし發露の力罪根をして銷殞せし
むるなり

第三章

受戒入位

次には深く佛法僧の三寶を敬ひ奉るべし生を易へ身を
易へても三寶を供養し敬ひ奉らんことを願ふべし西天
東土佛祖正傳する所は恭敬佛法僧なり若し薄福少徳の
衆生は三寶の名字猶ほ聞き奉らざるなり何に況や歸依
し奉ることを得んや徒らに所逼を怖れて山神鬼神等に
歸依し或は外道の制多に歸依すること勿れ彼は其歸依
に因りて衆苦を解脱すること無し早く佛法僧の三寶に

歸依し奉りて衆苦を解脱するのみに非ず菩提を成就す
べし其歸依三寶とは正に淨信を専らにして或は如來現
在世にもあれ或は如來滅後にもあれ合掌し低頭して口
に唱へて云く南無歸依佛南無歸依法南無歸依僧佛は是
れ大師なるが故に歸依す法は良藥なるが故に歸依す僧
は勝友なるが故に歸依す佛弟子となる事必ず三歸に依
る何れの戒を受くるも必ず三歸を受けて其後諸戒を受

くるなり然あれば即ち三歸に依りて得戒あるなり此歸
依佛法僧の功德必ず感應道交するとき成就するなり設
ひ天上人間地獄鬼畜なりと雖も感應道交すれば必ず歸
依し奉るなり已に歸依し奉るが如きは生生世世在在處
處に增長し必ず積功累徳し阿耨多羅三藐三菩提を成就
するなり知るべし三歸の功德其れ最尊最上甚深不可思
議なりといふこと世尊已に證明しなす衆生當に信

處に增長し必ず積功累徳し阿耨多羅三藐三菩提を成就するなり知るべし三歸の功德其れ最尊最上甚深不可思議なりといふこと世尊已に證明しなす衆生當に信

受すべし次に應に三聚淨戒を受け奉るべし第一攝律儀戒第二攝善法戒第三攝衆生戒なり次に應に十重禁戒を受け奉るべし第一不殺生戒第二不偷盜戒第三不婬戒第四不妄語戒第五不酤酒戒第六不說過戒第七不讚毀佗戒第八不慳法財戒第九不瞋恚戒第十不謗三寶戒なり上來三歸三聚淨戒十重禁戒是れ諸佛の受持したまふ所なり受戒するが如きは三世の諸佛の所證なる阿耨

多羅三藐三菩提金剛不壞の佛果を證するなり誰の智人か欣求せざらん世尊明らかに一切衆生の爲に示したまはす衆生佛戒を受くれば即ち諸佛の位に入る位大覺に同ふし已る眞に是れ諸佛の子なりと諸佛の常に此中に住持たる各々の方面に知覺を遺さず群生の長へに此中に使用する各々の知覺に方面露れず是時十方世界の土地草木牆壁瓦礫皆佛事を作すを以て其起す所の風水の

利益に預る輩皆甚妙不可思議の佛化に冥資せられて親き悟を顯はす是を無爲の功德とす是を無作の功德とす是れ發菩提心なり

第四章 發願利生

菩提心を發すといふは已れ未た度らざる前に一切衆生を度さんと發願し營むなり設ひ在家にもあれ設ひ出家にもあれ或は天上にもあれ或は人間にもあれ苦にあり

といふとも樂にありといふとも早く自未得度先度佗の心を發すべし其形陋しといふとも此心を發せば已に一切衆生の導師なり設ひ七歳の女流なりとも即ち四衆の導師なり衆生の慈父なり男女を論すること勿れ此れ佛道極妙の法則なり若し菩提心を發して後六趣四生に輪轉すと雖も其輪轉の因縁皆菩提の行願となるなり然あれは從來の光陰は設ひ空く過すといふとも今生の未た

道極妙の法則なり若し菩提心を發して後六起四生の轉轉すと雖も其輪轉因縁皆菩提の行願の因縁皆菩提の行願となるなり然あ
れば從來の光陰は設ひ空く過すといふとも今生の未た

過ぎざる際たに急ぎて發願すべし設ひ佛に成るべき功
徳熟して圓滿すべしといふとも尙ほ廻らして衆生の成
佛得道に回向するなり或は無量劫行ひて衆生を先に度
して自からは終に佛に成らず但し衆生を度し衆生を利
益するもあり衆生を利益すといふは四枚の般若あり一
者布施二者愛語三者利行四者同事是れ則ち薩埵の行願
なり其布施といふは貪らざるなり我物に非されども布

施を障へざる道理あり其物の輕きを嫌はず其功の實な
るべきなり然あれば則ち一句一偈の法をも布施すべし
此生佗生の善種となる一錢一草の財をも布施すべし此
世佗世の善根を兆す法も財なるべし財も法なるべし但
彼が報謝を貪らず自からが力を頒つなり舟を置き橋を
渡すも布施の檀度なり治生産業固より布施に非ざるこ
と無し愛語といふは衆生を見るに先づ慈愛の心を發し

願愛の言語を施すなり慈念衆生猶如赤子の懐ひを貯へ
て言語するは愛語なり徳あるは讚むべし徳なきは憐む
べし怨敵を降伏し君子を和睦ならしむること愛語を根
本とするなり面ひて愛語を聞くは面を喜ばしめ心を樂
しくす面はずして愛語を聞くは肝に銘ト魂に銘す愛語
能く廻天の力あることを學すべきなり利行といふは貴
賤の衆生に於きて利益の善巧を廻らすなり窮龜を見病

雀を見しとき彼が報謝を求めず唯單へに利行に催はさ
るゝなり愚人謂はくは利佗を先とせば自からが利省れ
ぬべしと爾には非ざるなり利行は一法なり普ねく自佗
を利するなり同事といふは不違なり自にも不違なり佗
にも不違なり譬へば人間の如來は人間に同せるが如し
佗をして自に同せしめて後に自をして佗に同せしむる
道理あるべし自佗は時に隨ふて無窮なり海の水を辭せ

ざるは同事なり是故に能く水聚りて海となるなり大凡

陀をして自に同せしめて後に自をして陀に同せしむる道理あるべし自陀は時に隨ふて無窮なり海の水を辭せ

ざるは同事なり是故に能く水聚りて海となるなり大凡善提心の行願には是の如く大凡の道理静かに思惟すべし大凡爾にすること勿れ濟度攝受に一切衆生皆化を被ぶらん功德を禮拜恭敬すべし

第五章 行持報恩

此發菩提心多くは南閻浮の人身に發心すべきなり今是の如く此發菩提心の因縁あり願生此娑婆國土に來れり見釋迦牟尼

佛を喜ばさらんや静かに憶ふべし正法世に流布せざらん時は身命を正法の爲に抛捨せんことを願ふとも値ふべからず正法に逢ふ今日の吾等を願ふべし見ずや佛の言はく無上菩提を演説する師に値はんには種姓を觀ずること莫れ容顔を見ること莫れ非を嫌ふこと莫れ行を考ふること莫れ但般若を尊重するが故に日日三時に禮拜し恭敬して更に患惱の心を生せしむること莫れと今

の見佛聞法は佛祖面々の行持より來れる慈恩なり佛祖若し單傳せずは奈何にしてか今日に至らん一句の恩尙は報謝すべし一法の恩尙は報謝すべし況や正法眼藏無上大法の大恩これを報謝せざらんや病雀尙は恩を忘れず三府の環能く報謝あり窮龜尙は恩を忘れず餘不の印能く報謝あり畜類尙は恩を報ず人類争か恩を知らざらん其報謝は餘外の法は中るべからず唯當に日日の行持

其報謝の正道なるべし謂ゆるの道理は日日の生命を等閑にせず私に費さざらんと行持するなり光陰は矢よりも迅かなり身命は露よりも脆し何れの善巧方便ありてか過ぎに一日を復び還し得たる徒らに百歳生けらんは恨むべき日月なり悲むべき形骸なり設ひ百歳の日月は聲色の奴婢と馳走すとも其中一日の行持を行取せば一生の百歳を行取するのみに非ず百歳の陀生をも度取

すべきなり此一日の身命は尊ぶべき身命なり貴ぶべき形骸なり此行持ありん身心自からも愛すべし自からも

其報謝の正道なるべし謂ゆるの道理は日日の生命を等閑にせず私に費さべらんと行持するなり光陰は矢よりも迅かなり身命は露よりも脆し何れの善巧方便ありてか過ぎに一日を復び還し得たる徒らに百歳生けらんは恨むべき日月なり悲むべき形骸なり設ひ百歳の日月は聲色の奴婢と馳走すとも其中一日の行持を行取せば一生の百歳を行取するのみに非ず百歳の佗生をも度取

すべきなり此一日の身命は尊ぶべき身命なり貴ぶべき形骸なり此行持あらん身心自からも愛すべし自からも敬ふべし我等が行持に依りて諸佛の行持見成し諸佛の大道通達するなり然あれば即ち一日の行持是れ諸佛の種子なり諸佛の行持なり謂ゆる諸佛とは釋迦牟尼佛なり釋迦牟尼佛是れ即心是佛なり過去現在未來の諸佛共に佛と成る時は必ず釋迦牟尼佛と成るなり是れ即心是

佛なり即心是佛といふは誰といふぞと審細に參究すべし正に佛恩を報ずるにてあらん

曹洞教會修證義終

明治二十三年八月二十八日

永平第六十三世

勅特賜眞晃斷際禪師 瀧谷琢宗

總持獨住第二世

勅特賜法雲普蓋禪師 吟上楳仙 編纂

大正元年拾貳月壹日印刷
大正元年拾貳月五日發行

京都市上京區木屋町通二條南へ入

發行兼 印刷者 川端清五郎

發賣所

慈海版一名宮様本版元 御經并ニ佛教書籍問屋

貝葉書院

大阪振替券五五〇番 東京振替券八四四番

電話特上九百拾九番

終